

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士( ビジネス )
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	平山 友規
指導教員氏名 生稲 史彦				
報告書題目 水戸ホーリーホックの観客動員数増加施策に関する研究 (スタジアム観戦満足度と再観戦意図の関係に関する研究)				
報告書概要 本研究では、様々なスタジアム観戦満足度要因がどのように再観戦意図に影響を与えているかを明らかにすることを目的とする。 まずスタジアム観戦要因に関する質問項目（19 項目）の結果に対して探索的因子分析を行った。その結果、「スタジアムでの経験価値」、「試合観戦満足度」、「選手との距離」、「グルメショップ満足度」、「試合観戦満足度」の 5 つの共通因子が見つかった。続いて、各因子が再観戦意図に正の影響を与えるという仮説のもと、サンプルを全体・男性・女性の 3 つに分けて各因子の因子得点を説明変数、再観戦意図に関する質問項目「今後のホーム試合も観戦したい（最小値 1、最大値 5）」の結果をそのまま被説明変数として重回帰分析を行った。その結果、サンプル全体に関しては、再観戦意図に対して「スタジアムでの経験価値」、「選手との距離」、「試合内容満足度」、「観戦回数」が正の影響を与え、メイン中央席と比較して「プラチナシート」が負の影響を与えることが明らかになった。男性に関しては、再観戦意図に対して「スタジアムでの経験価値」、「試合観戦満足度」、「選手との距離」、「観戦回数」が正の影響を与え、当日券と比較して「シーズンパスポート」が負の影響を与えることが明らかになった。女性に関しては、再観戦意図に対して「スタジアムでの経験価値」、「試合内容満足度」、「観戦回数」が正の影響を与え、当日券と比較して「前売り券」が負の影響を与えることが明らかになった。 以上の結果より「スタジアムでの経験価値」に関しては、より多くのサポーターが満足する応援を実現するため、応援に関してサポーターとクラブでの意見交換を、「選手との距離」に関しては、特に男性に向けての選手のファンサービスに対する意識改革を、「試合内容満足度」に関しては、気迫のあるプレー、プロらしいプレーを見せることによって、サポーターの胸を打ち特に女性観客数の増加につながるのではないだろうか、ということを提案する。				
審査日	平成 27 年 1 月 26 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(商学)	岡田 幸彦	
副査	筑波大学 講師	博士(コンピューター理工学)	有馬 澄佳	
副査	筑波大学 准教授	博士(経済学)	生稲 史彦	